

地域連携推進会議 会議録

日 時：令和8年1月20日（火）13:30~15:00

場 所：はるひ荘機能訓練室

参加者：保護者会長

養楽荘保護者会役員 はるひ荘保護者会役員

養楽荘利用者 はるひ荘利用者

春日井市役所 主任 主事

地域ボランティア団体 会長

他法人 高齢者福祉施設 施設長

養楽荘 荘長 課長 支援員

はるひ荘 荘長 課長

1 始めの挨拶

2 養楽荘

※別紙資料参照

- (1) 今年度の事業説明
- (2) 今年度の利用状況の説明
- (3) 事故報告
- (4) 日中活動報告

3 はるひ荘

※別紙資料参照

- (1) 今年度の事業説明
- (2) 今年度の利用状況の説明
- (3) 事故報告
- (4) 日中活動報告

4 質疑応答

(1) 保護者会長より

ア 保護者と施設の関係について、毎月の保護者会に施設長が参加して、ありのまま話をしてくれてありがたい。親の心配は子どもの怪我で、共同生活をしている以上は怪我がある。大きな怪我で原因不明ということも過去にはあった。それでは親は心配。職員の見えないところでの怪我については解消を願っている。はるひ荘は行動障害も重く、制限も多い。その中でも、もっと外に出て欲しいと思う。施設内で季節感のある行事の実施は良いが、施設の外に出る機会が増えてくるとより良い。高森台に障害者施設が2つあることが地域に認知されているのか。認知されていると良いと思う。そのためにも1つの案としてボランティアの受け入れを行い、地域に開かれた施設になると良いと思う。

(ア) 養楽荘荘長より

利用者が安心、安全に暮らせるように、事故をゼロにするのは難しいが今後も真摯に対応していく。外に出て欲しいという意見に対し、養楽荘は年に1回マンツーマンでの外出を行っており、利用者によっては職員2名で対応している。はるひ荘は年に3回外出をしている。ボランティアの力や外部のサービスを使えるのは大きい。ぜひ地域にも施設を知って欲しいと考えている。

実際にカフェはなもみにインスタグラマーが来店し投稿した際に、Instagramで10万件近い、アクセスあり。カフェ利用者数が伸びた。情報発信は大切だと思っている。

(イ) はるひ荘荘長より

入所の中での怪我や事故は課題である。毎月の保護者会では良いことばかりではなく、課題も正直に伝えていく。原因不明が多かった中で、年末から見守りカメラを導入したことで、すでに十数件が問題解決に繋がっている。事前に何が起きていたかもわかり、そのような行為に及んでしまう時間帯も把握することができた。外出や外食、入浴などやりたいことはたくさんある中で、現場の支援員も頑張っている。その中で保護者の要望に応えられない部分もあり、申し訳ない気持ちもある。近隣の高齢者施設からBBQのお誘いがあり、そのような行事に参加できるのはありがたい。障害福祉サービスは一般の方からするとまだまだマイナーである。はるひ荘もInstagramなどを検討していく。ホームページの更新はしているが、今後も幅広くできると良いと思っている。

(2) 他法人 高齢者福祉施設 施設長（福祉、経営に知見がある方）より

ア 障害者支援施設にヒヤリハットは無いのか。

養楽荘荘長より

あります。今回の資料では、1年分である為、ヒヤリハットも含むと膨大な情報量になってしまうため、事故報告のみで対応しました。

イ Instagram（実施中）やTikTokを積極的にやりたいと考えている。

保護者の同意はどのようにすれば良いか。

養楽荘荘長より

家族に案内を出し、個人情報の同意を得ている。養楽荘での同意は利用者40名に対して、15名くらいの同意しか得られていない。

同意がない方は、ぼかしを入れるが、ぼかしを入れすぎるとアクセス数は伸びない。新人職員が出演してくれた時からアクセス数が一気に伸びている。SNSを介して職員募集もあり。定期的な発信（投稿）を続けたことで出演NGの職員が好意的に変化し、NGがセーフになる事あり。

現在は1日2000回アクセス、月に約6万回再生、法人SNS（Instagram、

YouTube、tiktok）の今年度（4月～現在）の合計で約34万回アクセスされている。

以前、チラシ（紙）で募集を掛けた際は、地域住民に1000部、作成、起案、印刷、配布に50時間程度の労力を要したが、応募はゼロであった。

SNSを活用し、デジタル化したことでスピード感も出て、情報発信力、認知度も上がってきている。

ウ SNS 作成に担当者はいるか

養楽荘荘長より

担当者はおり、将来的に法人内で 1 割デジタルを扱える職員がいればと考えている。計画的に年に 6 名育成し、5 年間で 30 名の担当者の育成を目標と考えている。動画作成は業務時間で行う。各事業所にそのような職員を配置できればと考えている。苦手なことよりも、得意なことを伸ばす育成を優先している。

(3) はるひ荘保護者会役員より

息子ははるひ荘では比較的大人しい。市役所の障害を担当する方にも理解してもらえると良い。移動支援の相談に市役所に行った。コロナが流行ってからドライブに行けなくなってしまった。毎週外出するのは母として大変になってきた。入所前は週 1 回以上外出・外食していた。実費で出かけることも可能だが、職員・利用者ともに慣れるまでが大変。自傷や他害がある人はもっと大変だと思う。春日井市は福祉の街であるため、何とか市で対応をできないか。入所前の生活が保たれると良いと思う。息子に関して、SNS などはオールフリーで、むしろ家族が見えないところがある方が心配。見守りカメラを設置したが、それについても市で補助が出ると良い。カフェはなももができた際も週に 1 回ぐらい行けると良いと思っていた。今回のような会議からボランティアの力が増えると良い。

ア 春日井市役所 主任より

障害福祉課内で今回の内容は共有をさせていただく。その中で、私たちだけの改善はなかなか難しい。国の制度を変えないといけない。ボランティアに関しても大変だと思う。外出の支援サービスとして話題に挙がった Y とはどのようなものか。

イ 養楽荘課長より

Y とは NPO 法人。コロニーの養楽荘時代のスタッフ。アピタに行ったりしている。旧スタッフだからこと利用者について分かる点が多くある。

ウ はるひ荘荘長より

Y は有償ではあるが、思いでやってくれている。元々はグループホームなどの運営もされている法人。

エ 春日井市役所 主任より

現状はそのようなサービスを利用していただくしかない。申し訳ない気持ち。ご意見としていただく。

オ 養楽荘荘長より

課題共有から始まることは多い。それぞれだと限界がある。誘っていただいて誘わせていただく。最終的には利用者さんの生活を支えることでプラスになる。法人としてもそれが望ましい。できることを改善していくのでよろしくお願いしたい。

(4) 地域ボランティア団体会長より (ボランティア 地域の関係者)

地域の人がどれだけ知っているか。たくさん聞かれることがある。皆興味はある。

ボランティア活動に参加している利用者さんが職員に「利用者で比較的、落ち着いている方」と言われることがあった。

前回のもちつきは利用者さんが大勢、参加されていた。今年の利用者さんは、少人数の参加で割と大人しい印象を受けた。多くの人がいて、その中で色々な人がいるのが良い。

スヌーズレンを開放していることを今回初めて知った。

ア はるひ荘荘長より

スヌーズレンの開放については、保護者会のある第二日曜日以外を開放日としている。

イ 地域ボランティア団体会長より（ボランティア 地域の関係者）

どのようなものか興味がある家族はこの辺りにはたくさんいる。もう少し告知ができると良い。Instagramもすごく良いと思う。楽し気な感じが伝わる。皆歓迎している。この辺りは環境も静かで落ち着いた場所。花で貢献できると良いと思っている。接する機会が増えてくると良いと思っている。

ウ 養楽荘荘長より

前回のもちつきは利用者が一斉に全員参加で、80名弱であり、会場が混雑していた。

ありがたい事に今年は餅つきの参加者については、地域ボランティアや他施設の利用者、職員など招待客が60名近く集まった為、合計参加者が120名近くとなり多目的室である会場が手狭となり、利用者は全員参加だったが、1棟ずつ、ローテーションで参加した。

利用者、職員にとっても地域や、他施設の方々に会える機会が増えると思う。

オ 地域ボランティア団体会長より（ボランティア 地域の関係者）

大人数であれば、餅つきは外で行う方が良いのではないかな。

カ 養楽荘荘長より

天候が読めないため、今後も室内の可能性が高い。

（５）次回見学日調整

3月9日10時からはるひ荘を見学し、終了後に養楽荘見学で日程調整する。